

●各遺跡の概要 (国史跡「奄美大島要塞跡及び大島防備隊跡 附 大島需品支庫跡」)

大島需品支庫跡 (おおしまじゅひんしこあと)

令和7年9月18日指定

※佐世保海軍軍需部大島支庫跡 (させぼかいぐんぐんじゅぶおおしましこあと)

大島需品支庫跡は瀬戸内町久慈 (奄美大島の西) に所在する遺跡です。

1890 (明治23) 年に佐世保鎮守府の艦船用需品を保管する施設として、石炭庫と番舎が建設されました。その後、水溜、取水口、濾水池、棧橋などの施設が次々に建設されました。現存する施設は水溜跡、取水口跡、濾水池跡があり、見学可能な施設は水溜跡のみです。水溜跡は総レンガ造構造物で、奄美大島本島内で最古の軍事施設跡です。建設当時は艦船用の給水施設 (水タンク) として機能しました。水はカッター船を利用し、久慈湾沖合に停泊する艦船へ運ばれました。

[遺跡名称について]

令和7年の追加指定により、当該施設は明治期に建設された施設であることから、国指定史跡名として明治期の施設名称である「大島需品支庫」を採用することになりました。

※鹿児島県の周知の埋蔵文化財包蔵地としての遺跡名称は、これまで通り「佐世保海軍軍需部大島支庫跡 (終戦間際の施設名称)」となります。



※令和5年3月に作成したマップです。



大島需品支庫跡 (遠景)



水溜跡 (近景)



水溜跡 (内部)



大島需品支庫跡 (集落民による復元図)